

「情報公開文書」

以下、本文

下記臨床研究は「東海大学医学部臨床研究審査委員会」の承認および研究機関の長の許可を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。

本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡ください。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。

本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

課題名

「総合診療におけるポイントオブケア超音波の活用」に関する研究

1. 研究の対象

対象は2017年10月1日より2022年5月31日までに東海大学医学部附属大磯病院でPoint-of Care Ultrasoundを施行した患者です。

2. 研究目的・方法

超音波診断装置はハイエンドで多機能の機種が年々開発されている一方でその小型化も進み、どこにでも手軽に持って行き診断の補助として使用できる機種も急速に普及してきました。Point-of Care Ultrasound(以下POCUS)とは、患者のもとに持ち込まれ、医療従事者によってリアルタイムに行われる超音波検査と定義されますが、2011年にNew England Journal of Medicine誌にPOCUSに関しての総説が発表されて以来、こうしたベッドサイドでの簡易的な超音波検査は患者の状態の変化にすぐに対応でき、また繰り返しできる点が重要であるとされ、多くの診療領域で使用されるようになりました。

総合診療の中では患者の様々な主訴に対して短時間で診断に関する重要な情報を得る必要があります。東海大学医学部附属大磯病院の総合内科では、2017年にGE社製の小型のエコー診断装置を購入し、主に外来診療や救急現場でPOCUSを実践してきました。本研究では総合診療の外来におけるPOCUS活用の有用性について明らかにする事を目的としました。方法は、外来診療録から後ろ向き調査を行い対象患者を抽出し、診療情報を電子カルテから収集した上でデータベースを作成する予定です。

なお、この研究に使用する情報として、診療情報から項目3に記載する情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

3. 研究に用いる診療情報の内容

・年齢、性別、施設入所の有無、外来受診時の主訴、POCUS 施行目的、POCUS の評価内容、最終臨床診断、追加の他の画像検査、転帰、等の評価。

4. 情報の提供先・提供方法

・なし

5. 利益相反に関する事項

・この研究は、特定企業等からの資金提供はないため利益相反はありません。

6. お問い合わせ先

東海大学医学部附属大磯病院 (電話：代表 0463-72-3211 内線：5610)

研究責任者 総合内科 島田 恵

問い合わせ担当者 総合内科 島田 恵

-----以上